

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900694
法人名	医療法人 岩村外科胃腸科
事業所名	グループホーム よしの里
所在地	宇和島市吉田町魚棚20-5
自己評価作成日	平成29年1月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年3月2日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は利用者様にとってホームが居心地の良い居場所となるよう利用者様一人一人幸せな気持ちで生き生きと日々過ごして頂けるよう努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関横には菜園があり、収穫を楽しんでいる。玄関を入ったところには、利用者が作った貼り絵のお雛様を飾っていた。壁には、利用者が縫ったマスコットを飾ったり、習字の作品を掲示したりしている。  
 昨年は、社協からの依頼で、中学校の授業で「認知症サポーター養成講座」を行った。関わり方の良い例と悪い例について寸劇を行い、職員も改めて利用者への関わり方の大切さに気付くことができた。  
 家族から、葬儀や法事の際の利用者の参加について相談を受けることもあり、できるだけ参加できるように話し、送迎等してサポートをしている。  
 のどの弱い利用者の居室には、加湿器を設置している。家族来訪時に撮った写真を引き伸ばして掲示している。仏壇を持ち込んでいる方については、お茶湯を行うことが難しくなった利用者の替わりに、現在は、職員が手伝っている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名	よしの里
(ユニット名)	ユニット1
記入者(管理者)	
氏名	中村竹子
評価完了日	29年 2月 25日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  介護において、行き詰ったり意見が分かれる時は、理念に立ち戻り、皆で話し合っている。又、ミーティング時、職員と理念が共有できているか確認している。	
			(外部評価)  「家庭的な環境のもとであたりまえに普通の生活を」の理念をもとに、管理者は、職員に「利用者のペースを大切に、時間に捉われないで関わるよう」話している。家族には、家族のペースで関わってもらえるよう話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  散歩、買い物等日常的に地域に出向いている。公園掃除、祭りの準備、区定例会等町内会行事に参加している。	
			(外部評価)  事業所のことを病院と捉えている地域の方が多いため、事業所が発行する「よしの里だより」を回覧板で回してもらえるよう依頼しており、又、幼稚園、小・中学校、民生委員にも配布している。昨年は、民生委員の会合時に、認知症について話をした。幼稚園の卒園児に、利用者手作りのプレゼントを渡して喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  公民館にてふれあい教室開催。吉田中学校にて認知症についての勉強会開催(寸劇、認知症について説明)、吉田高校保健部会に於いて認知症について講演等を行いこちらから地域の人々に向けて発信できた	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			他グループホームの方にも参加頂き意見、情報交換を行い、外部の意見も取り入れている。	
			(外部評価)	
			会議は、近所の方や他グループホーム職員の参加があり、家族やボランティアの方に事業所の事を知ってもらえるように、毎回違う人に声を掛けている。新たに婦人会の方が参加している。会議では、行事報告や事故報告等を行っている。	参加しやすい会議に向けた取組みに工夫してみてもいいだろうか。会議の意義を踏まえ、日程やメンバー等も工夫してみしてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会議時、介護保険制度についての説明等してもらっている。(改正時など)又、ホームの取組みを報告し、その中で出た意見をサービス向上の為に活かせるよう努めている。	
			(外部評価)	
			昨年は、社協からの依頼で、中学校の授業で「認知症サポーター養成講座」を行った。関わり方の良い例と悪い例について寸劇を行い、職員も改めて利用者への関わり方の大切さに気付くことができた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			研修に参加し、拘束について話し合い、勉強する機会を持っている。日々のケアにおいて、拘束及びグレーゾーンについて職員どうしが意見交換を行っている。	
			(外部評価)	
			外部研修受講後、職員で話し合い意識統一した。外出する利用者には、職員が付き添って支援している。調査訪問時には、利用者が一人で外に出て洗濯物を取り込んでいる様子が見られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、職員間で情報の共有を図っている。特に実際に起きたケース(新聞に出ている事件等)を課題にミーティング時話し合う機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は制度について理解しており、他職員にもミーティング時等に制度について説明し理解できるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、解約時、十分な時間をとり、分かりやすい様、パンフレットなどでの説明をして納得して頂いている。料金改定時にも文章や表に表し説明している。遠方の方にも電話と文書を送付し説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見は日頃の関わりの中でも発見できるよう関わり、観察している。家族とは来所時、コミュニケーションを図り意見や要望を言いやすい雰囲気作りをしている。 (外部評価) 毎月、家族には、利用者の写真と日々の生活の様子についての手紙を送付している。行事案内等は、個別に連絡しているが、参加する方は少ないようだ。家族には、気軽に足を運んでもらえるように、「いつでも来てください」と声掛けしている。	家族はケアパートナーでもあり、一緒に活動する機会を作ったり、報告を工夫する等して、今後さらに、関係作りに向けた取り組みに工夫を重ねていってほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)  職員が日頃から取り組みについての意見などを言いやすい雰囲気、環境を整えている。  (外部評価)  職員は、ユニット同士で助け合うようなこともあり、職員からの提案で定期的に異動を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)  職員の得意分野を把握しており、一人一人が活躍できるよう配慮している。資格取得にむけての講習会にも参加できるように勤務体制を整えている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)  職員の質の向上を図る為、研修を受講できるよう配慮している。資格取得のための奨学金制度がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)  運営推進会議時、他ホーム職員と相互に参加し合っている。外部研修で他ホーム職員と交流出来るよう努めている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)  初期の不安な時期は、特に関わりを大切にし、安心していただくよう努めている。センター方式を活用し思いや本人を知る努力をしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期は家族も不安である為、利用者同様時間をかけゆっくり関わり、傾聴の姿勢で努めている。家族の方から話をだせる雰囲気作りをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人とご家族から現在の状況(状態)や生活歴、現在希望されている事柄を伺い、まず必要とされている支援を見極め、その方に合ったサービス内容の説明を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事を利用者と共に行っており、利用者にも助けて頂いているという関係を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1のポストカードで近況報告し、ケアについても相談しながら行っている。衣替え、大掃除等も参加お願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前から利用されている美容院へ行き、馴染みの関係が途切れる事のないよう支援に努めている。以前住んでおられた地域にドライブに出掛けたりしている。	
			(外部評価) 家族から、葬儀や法事の際の利用者の参加について相談を受けることもあり、できるだけ参加できるよう話し、送迎等してサポートをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	家事仕事の時は、仕事を分担したり流れ作業のように協力したり支え合っている。関係が悪くなるような場面では職員が間にはいるよう努めている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	入院等により退所された方へのお見舞いをし、ご家族にお会いする機会があれば様子を伺ったり、相談しやすい雰囲気作りに努めている。他施設に入居された方には近くに行つた折に立ち寄り面会している。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	家族より情報収集したりセンター方式を活用している。思いや意向の把握に努めている。
			(外部評価)	
				入居時の家族からの聞き取りや、居宅からの情報、入院中の情報を得ており、必要に応じて24時間シートを作り、利用者を知ることに努めている。職員は、医療面と生活面の各申し送りノートに記録し、情報を共有している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	センター方式の活用、家族の方の聞き取りにより、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の把握に努めている。又、面会者(親類、友人)にも話をきかせて頂けるよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	利用者一人一人の一日の生活リズムで過ごしていただけるように努めている。少しでも普段と違った様子が見受けられれば職員間で話し合うようにしている。毎日のバイタル、排泄できる力、わかる力の発見があるとスピーディーに職員間で情報共有するよう努めている。



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご本人やご家族の意向を十分に聴きカンファレンスやミーティングを行い、ご本人がよりよく暮らす為の介護計画を作成している。ご家族が面会に来られた来られた際には意見を伺い介護計画に反映している。定期的に職員間で話し合ってモニタリングを行っている。</p> <p>(外部評価) 家族来訪時に介護記録を見てもらい、要望を聞き取っている。介護計画は、担当職員が介護記録をもとにして作成し、ミーティング時に他職員が確認する仕組みになっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケアの気づき、工夫などはその都度、申し送り時に口頭で情報共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者さんの高齢化、認知症の重度化により、スピーディー臨機応変に対応することが難しくなっている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) カラオケ、押し花、年2回のお掃除等ボランティアの方々の協力を得て行っている。年2回の避難訓練も地域の人や地区の消防団、消防署の協力を得て行っている。公民館、地域の銀行のロビー展に利用者の作品を出展している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居前のかかりつけ医がある場合は家族、本人の意向に応じて継続的受診できるようにしている。又、協力医療機関においては24時間連携しており安心した医療が受けられる。	
			(外部評価) 入居後も、母体病院で継続して診てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関の看護師とは、日常的に連絡を取り合い、健康管理についていつでも相談出来る体制にある。又、二か月に一度看護師による研修を行っている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院前に家族、本人、医療機関と話し合い連携を取りながら、安心して入院生活が送れるようにしている。入院後は、可能な限り早期に退院できるように情報交換を行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時及び、重度化、終末期の初期の段階に本人、家族の意向を聴き、ホームとしての方針を明確にし共有している。状況に変化があった場合にはその都度、柔軟に対応できるように努めている。広報を地域に回覧板で回したり、地域の行事に参加し、入居者様の顔を覚えてもらっている。	
			(外部評価) 入居時に説明しており、家族は「最期は病院で」と考えている方が多い。法人は、「口から食べられなくなったら、医療に」と考えており、家族と話し合いを重ね、点滴や栄養剤等も採り入れながら支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			利用者の急変や事故発生時に備えて二カ月に一回協力医療機関の看護師による緊急時対応研修会を開催しており、すべての職員は緊急時の対応を学んでいる。緊急時マニュアルを作成しており適切な対応が出来るように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			火災、地震、水害の場面を想定した避難訓練(年2回総合避難訓練)と年1回自主避難訓練を行っている。その際には、地域、ボランティア、消防団に参加していただいている。	
			(外部評価)	
			年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。11月の訓練時には、地元消防団5名の参加を得ており、併せて事業所内の見学をしてもらった。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			プライバシーや自尊心を傷つけないように一人一人の人格を尊重し、声かけの方法など配慮している。気づきがあれば職員間同士でも申し送りやミーティングで話し合うようにしている。	
			(外部評価)	
			調査訪問時、職員は、利用者の間違いを指摘することなく、さりげなく対応していた。話す時には目線を合わせ、個人的な話をする時には、他者に聞こえないように配慮していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			希望が表出できるような関係作り、雰囲気作りに努めている。自己決定しやすい様に、わかりやすく説明したり、ゆっくり時間をかけて待ったりと努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 「今から何をしますか？何したいですか？」など本人に決定してもらうよう努めている。意思疎通が図れない方は、アセスメントやセンター方式を活用し、ご本人の気持ちを把握するよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしい衣類をご本人、家族などから聞くなどして把握するように努めている。又、ホームでは季節に合わせた服を自ら選択できるよう声かけしたり工夫している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立をもとに、毎食野菜切りなどおかず作りなど職員と一緒にしていただいている。食後の片付けも一緒に手伝っていただいている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が立てた献立に沿って、1、2階で分担して調理を行っている。週に1回は、町内の魚屋から刺身が届く。利用者の状態を見ながら、下ごしらえ等、できることをお願いしている。利用者の誕生日には、希望の献立を採り入れている。職員は、利用者とおしゃべりしながら同じものを一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量、食事量など本人の摂取量を職員が一人ひとり把握し支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎月、協力歯科医療機関の医師、歯科衛生士が来所し口腔ケアの指導など、ホーム職員と利用者に行っている。毎食後歯磨きをするが自力で行うことが難しい方には誘導し、出来ない部分を介助し、清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 失敗が見られる方には排泄チェック表に排泄時間をつけ一人ひとりの排泄パターンの把握をする。排泄間隔が空いている時は、トイレ誘導を行う。又、出来る限りご本人のペースに合わせ自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) パッドをうまくセットできないような利用者には、職員がそっと見守り声をかけながら、自分でできるようサポートしている。歩行が不安定な利用者やトイレに頻繁に行く方については、職員で話し合い、夜間自室でポータブルトイレを使用できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘についてNs研修で学習し職員間で情報を共有している。排泄チェック表をもとに個々の排泄状態に合わせた便秘予防を行っている。予防には冷たい牛乳、ヨーグルト、食物繊維の多い食品等を取り入れている。それによって自然排便を促すように努めている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回午前中、入浴となっているが、本人の希望、状態に合わせて、臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 入浴を嫌がる利用者が多く、声掛けに工夫したり、嫌がる方には日をずらしたりして、週2回は入浴できるよう支援している。中には、職員とおしゃべりしたり歌を歌ったりしながら、入浴を楽しむ利用者もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の様子を観察し、日中しんどそうな時は休むことをお勧めしたり、夜眠れない方には、ホットミルクを飲んでいただき、うとうとされるまでより添い安眠できるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  処方薬ファイルは、いつでも目を通せる状態にあり、職員は内容など理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  一人一人の生活歴を参考に食事の準備、編み物、縫物、歌を歌うなど楽しみながら継続出来るよう支援している。買い物に行ったり、パズルや体操などを行い気分転換できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  庭のベンチで日向ぼっこをしたり、散歩やドライブなど一人ひとりの状態や希望に合わせて出掛けている。又、地域の行事にも積極的に参加をし、お墓参りなど家族の方にも協力していただき出掛けている。	
			(外部評価)  近くのスーパーに食材の買い出しに行ったり、散歩したりしている。又、公民館のロビー展に見学に行ったり、法人の施設のイベントに参加したりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  一人ひとりの力や希望に応じて、お金の所持の支援をしている。買い物などの支払いの際は、出来る限りご本人にいただき、職員は側で見守り支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  電話や手紙は、利用者の希望により支援し、出来ない部分は職員がお手伝いするようにしている。毎月家族に送付している近況報告にはご自身で記入可能な方には記入出来るよう支援している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			居間のテレビの音量や質内の照明、日差しの明るさには気をつけている。季節の花を飾ったり、居間や廊下の壁面には、利用者と一緒に作成した作品や利用者の日常写真などを飾っている。	
			(外部評価)	
			玄関横には菜園があり、収穫を楽しんでいる。玄関を入ったところには、利用者が作った貼り絵のお雛様を飾っていた。壁には、利用者が縫ったマスコットを飾ったり、習字の作品を掲示したりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			共用空間にはソファを置き、ゆったりテレビ観賞したり、時には横になったりのんびりと過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			居室にはご本人が作られた小物や家族写真などを飾ったり、今まで使用されていたダンスや仏壇、テレビなどを持ち込み過ごしやすくしている。	
			(外部評価)	
			のどの弱い利用者の居室には、加湿器を設置している。家族来訪時に撮った写真を引き伸ばして掲示している。仏壇を持ち込んでいらっしゃる方については、お茶湯を行うことが難しくなった利用者の代わりに、現在は、職員が手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			一人一人の力を把握し、混乱や失敗を妨げるようトイレの入り口にはプレートを貼り、浴室には暖簾をかけている。又、居間、廊下、浴室には手すりがあり、段差もないため安全で自立した生活が送れるようになっている。	